



日産合成工業株式会社 メールマガジン

2015・06・15 第102号



今年も連休に草津温泉に湯治に行きました。いつも泊まる宿はいわゆる湯治宿で、内風呂と8畳ほどの部屋と人数分の布団とテーブル1脚と冷蔵庫を貸してくれ、朝夕2食がつくだけで、後は全くかまってくれないところです。部屋は何の飾りもないのですが清潔で、食事もういゆる懐石料理ではなく、一汁三菜のごく普通の家庭料理です。お酒が飲みたければ自分で準備しなければなりません。もちろん布団の上げ下ろしも自分でします。インターネットの回線はもちろんテレビもありません。宿泊代は1泊2食付きで約5,000円です。このような環境ですので、すぐくのんびりと散歩をして、風呂に入り、湯上りのビールを飲み、読書と昼寝三昧の日々が送れます。大変気に入っています。

しかし、今年行ってみると町中に無料の高速無線LAN(Wi-Fi)が張り巡らされ、どこからでもインターネットが使えるようになっていましたし、部屋には薄型テレビが設置されていました。インターネットもテレビも宿泊客が使わなければ有っても問題はないのですが、なんとなくこれまでとは違った雰囲気生まれてきているような気がしました。ちなみに宿泊代は消費税が増税された分だけ値上がりしていました。

散歩の途中、ガイドブックには載っていないちょっと面白いものを見つけました。草津温泉の中心である「湯畑」の近くに光泉寺という真言密教のお寺があります。



正治2年(1200年)に草津領主湯本氏が再建したと言われている古いお寺です。この境内にある釈迦堂の前に「遅咲如来」という看板が立っていました(写真)。

聞いてみると、中に安置されている釈迦如来像は元禄時代に東大寺の公慶上人が作ったものと伝えられていましたが、このことが平成17年の調査で事実であると証明されたのだそうです。以来約300年を経て世に出られた仏様であることから「遅咲如来」として信仰されるようになったということです。今まであまり花を咲かせられなかった人や、これからもう一花咲かせたいと願っている人のお参りを勧めています。私もお参りしてきました。

さて、ニッサンメールマガジン第102号をお届けします。

飼料用とうもろこしの新しい栽培技術

畜産草地研究所は飼料用とうもろこしの新しい栽培技術として、播種作業を省力化する簡易耕播種技術、湿害を軽減する耕うん同時畝立て播種技術、土壌養分活用型のカリ施肥管理技術、並びに新品

種や安定栽培マップを活用した寒地における安定栽培技術等についての技術紹介パンフレットを作成し、HPで公開しました。

特記すべきことは、飼料用とうもろこしの新たなカリ減肥指針として、カリ施肥が不要と判定される交換性カリの基準値を従来値よりも大幅に引き下げつつ、低カリ肥沃度条件におけるカリ施肥量を10kg/10aとする施肥管理により、カリ施肥量を抑えて目標乾物収量1,800kg/10aを得られる土壤養分活用型カリ施肥管理技術を開発しました。

カリの多い飼料を乳牛に食べさせると、色々とトラブルの原因になることは、かなり以前から知られていました。飼料用とうもろこしの生産技術開発に携わっている方々も、乾物やエネルギー収量を追いかけるだけでなく、とうもろこしを乳牛の飼料として見て下さるようになって、喜ばしい限りです。今後の発展を期待したいと思います。

電子版のパンフレット(PDF形式)は、農研機構畜産草地研究所の技術紹介パンフレット一覧(http://www.naro.affrc.go.jp/publicity_report/publication/pamphlet/tech-pamph/index.html)からダウンロードして利用できます。

冊子体のパンフレットについても農林水産省の各地方農政局、都道府県を通じて、地域の普及担当部署に配布する予定ということです。また、希望される場合は農研機構畜産草地研究所にFAX(0287-37-7132)でお申し込みください(部数に限りがあるため配布は先着順となります)。

バター 1万トンを10月末までに追加輸入

農林水産省は5月26日、前年度に引き続きバターを10月末までに追加で1万トンを輸入する方針を発表しました。今年度はすでに2,800トンを輸入することを決めていましたがそれに追加する形です。

バターはクリスマスをはじめ冬場に多くの需要が見込まれ、前年度はスーパーなどの一部店頭で品切れが起きていました。追加輸入で安定供給につなげ消費者の混乱を避けたい考えです。

Jミルクは25日、追加輸入をしない場合に年7100トン不足する見通しだと発表しました。バターは国が一括して一定量を輸入する仕組みが中心です。

そもそも現在のわが国では生乳の生産量は足りていません。10年前には全国の年間生産量は829万tでしたが、14年度には733万tと約12%減少しました。15年度は横ばいと予測されています。

現在の多くの酪農家では高度成長期からバブル期に建てた牛舎などの施設・設備が老朽化してきていますが、その更新には1億円以上かかるといわれています。他の農業に比べて投資額がかさむケースが多く、廃業する酪農家が増えています。高齢化による廃業も多く、結果的には酪農家戸数は減少し続けています。国は若手の酪農家を増やそうと「畜産クラスター事業」など予算面の支援を強化していますが、効果が出るまでには時間がかかりそうです。より強力な施策が待たれます。

2014年度 食料・農業・農村の動向(農業白書)

政府は5月26日、2014年度の「食料・農業・農村の動向(農業白書)」を閣議決定しました。冒頭の特集1「人口減少社会における農村の活性化」で、

- 農村においては、高齢化・人口減少が進行するとともに、これまで地域活動を担っていた高齢者の人口も減少に転じることから、地域の特性に応じた新たな農村の将来像を描き、コミュニティの維持・活性化や生活関連施設の再編等の取組を推進する必要。

○一方、都市に住む若者を中心に農村への関心を高め豊かな環境や新たな生活スタイルを求める「田園回帰」の動きや、定年退職を契機とした農村への定住志向がみられるとともに、農村においてもコミュニティの維持や活性化への取組が増加。

としています。

政府が14年に実施した世論調査によると、都市住民の31.6%が農村などへの定住願望が「ある」または「どちらかというところ」と回答し、05年の調査に比べ11ポイント上昇。特に20～29歳の男性では47.3%に達したということです。これらを受けて、農村への関心の高い若者を中心に、都市と農村を行き来する「田園回帰の動き」が出始めていると指摘しています。林芳正農相も26日の記者会見で「田園回帰の動きを農村などへの定住に結びつけていくことが大事だ」と述べ、政府の政策で後押ししていく考えを示しました。

酪農・豆知識 第99号の概要およびURL

飼養管理を精度高く保ち生産性を維持向上させるためには、乳量・乳成分から飼養管理に必要な情報を得る必要があります。牛群検定に加入していれば、必要な情報とその情報をもとにした専門家のアドバイスが得られます。しかし牛群検定に加入していない場合でも、集乳旬報(バルク乳成分)は入手できます。牛群検定ほど精度は高くありませんが、その活用は飼養管理に有効です。

そこで集乳旬報に記載されている成分の飼養管理上の意義と酪農経営上の意義および、各項目の利用のポイントを「酪農・豆知識」第99号にまとめてみました。

「酪農・豆知識」は、[当社のウェブサイト](#)のトップページにある「技術情報」をクリックし、「酪農・豆知識」のページに入るとご覧になれます。ぜひご利用ください。

お知らせ

メールマガジンへの登録・質問等

メールマガジンの配信の停止、登録内容の変更等は[当社のウェブサイト](#)のトップページにある「お問い合わせ」のページをご利用ください。

このメールマガジンへのお問い合わせ、ご意見・ご要望等、並びに技術的な問題等がございましたら、[当社のウェブサイト](#)のトップページにある「お問い合わせ」のページをご利用ください。

アドレス変更をお忘れなく

人事異動、転退職等でメールアドレスが変更になった場合で、引き続き日産合成工業株式会社のメールマガジンの配信を希望される方は、旧アドレスと新アドレス及び新所属等を[当社のウェブサイト](#)のトップページにある「お問い合わせ」のページを利用してお知らせください。配信できなくなったアドレスは、メーリングリストから自動的に削除しておりますので、よろしく申し上げます。

また、今後の配信が不要な場合にも[当社のウェブサイト](#)のトップページにある「お問い合わせ」のページを利用してお知らせください。